



# あくんちやらんど

校訓『負けじ魂』

キャッチフレーズ「祖先の知恵を受け継ぐ大城小」

HP アドレス <https://www.town.wadomari.lg.jp/school/ohjiro-e> 令和8年2月25日No.10

## ～郷土で育てる肝心の教育～

校長 根釜 恵理子

寒の戻りがありつつも三寒四温と言われるように、少しずつ春が近づいてきている今日この頃です。今週で2月も終わり、来週から今年度最後の月、3月になります。3学期は本当にあっという間に過ぎていきます。残り一ヶ月、子供たちが元気に卒業・修了の日を迎えられるよう、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に見守っていきたいと思います。

さて、和泊町では「郷土で育てる肝心の教育」として、西郷南洲翁の教えやえらぶゆり栽培の歴史、郷土の先人や茶道の実践など様々な教育活動を行っています。また大城小でも「祖先の知恵を受け継ぐ大城小」というキャッチフレーズのもと、「郷土で育てる肝心の教育」として、米づくりや黒糖づくり、三味線・万寿主・島ムニなどの教育活動を行っています。

郷土学習は、子供たちが「自分と社会がつながっている」ことを実感できる最高の学習です。郷土学習のメリットとして、次のようなことが挙げられています。

### 1. 「自分事」として社会を捉える力が育つ

教科書の遠い世界のことよりも、自分たちの近くにある史跡や身近な話の方が、子供たちの心に深く刻まれます。

### 2. 多様な大人（ロールモデル）と出会える

多くの「地域のプロ」の方と接する機会が生まれ、多様な生き方や価値観に触れることで、キャリア教育の側面も持ち合わせます。

### 3. 「郷土愛」が自己肯定感につながる

自分が生まれ育った場所のことを「すごい」「面白い」と思えることは、巡り巡って「そこで育った自分」を肯定することにつながります。

郷土の先人「菅村芳弘」さんの功績を記した石碑が菅原神社の近くにあります。6年生と一緒に行った歩こう会の際に、その石碑を目にしました。実際にその場所を知ることによって学びが深まることを実感しました。

たくさんのメリットがある「郷土で育てる肝心の教育」の意義を再確認しながら、子供たちと共に学びを深めていきたいと思っています。

### \*\*\*子供たちの健やかな成長を願って\*\*\*

1月8日(木)にいじめに関するアンケート、2月3日(火)に学校楽しいーとによるアンケートを実施しました。今回も、いじめられているという子供は見られませんでした。保護者の皆様や地域の皆様が把握されている場合は、学校までご連絡ください。

## 今年もおいしい黒糖ができました

キビ刈りを2月9日(月)、黒糖づくりを10日(火)に行いました。キビ刈りは、5・6年保護者、PTA事業部、大城小学校もりあげ隊の方々に協力をいただきました。背丈よりも大きく育ったキビでしたが、5・6年生はコツをつかみ上手に刈り取っていました。

翌日の黒糖づくりにも、朝早くから、保護者やもりあげ隊の方々にご協力をいただきました。山下幸秀さんから御指導いただき、今年も美味しい黒糖ができました。たくさんの皆様のご協力で、年1回の貴重な体験活動を無事に終了することができました。心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

できあがった黒糖は、学校行事等の機会を使って地域の皆様にも味わっていただけたらと考えています。

### 【子どもたちの感想】(日記より)

「黒糖づくり」5年：永吉 叶和

2月10日の朝から昼まで黒糖づくりをしました。人数が少なくとても大変でした。でもみんながせいっぱいキビ絞りやキビ汁を混ぜるなどがんばっていたので、おいしい黒糖を作ることができました。ちょっと食べてみたところ、とてもあまくておいしかったです。次はみんなでおいしい黒糖を作りたいです。とても楽しかったです。

「キビ刈り・黒糖づくり」5年：島田 唯叶

2月10日に黒糖づくりをしました。前日にキビ刈りをしました。キビ刈りは意外とむずかしく一本一本刈るのに時間がかかりました。

黒糖づくりで初めてサタ小屋の中に入り、あく取りをしました。5年生になり初めて黒糖づくりがこんなに大変なんだとわかりました。その後、黒糖を混ぜる作業をしました。黒糖が固くなるにつれて、まぜる力も強くしていかないといけないので、すごくつかれて大変でした。黒糖をふくろに入れて結ぶのがむずかしかったです。

